

「2025ビジョン」 「中長期事業経営計画」を作成・策定して



ゆるぎなく前進できる同仁会を

社会医療法人 同仁会

理事長

田端 志郎

新年あけましておめでとうございます。

昨年の1月末からコロナ禍対応が始まり、瞬く間に1年が過ぎてしまいました。全役職員と健康友の会みみはらの奮闘により、地域での役割を十二分に果たしながら経営も守り、何とか乗り切ってきた1年でした。皆さまには、感謝とねぎらいの言葉しかありません。ありがとうございました。そしてご苦労様でした。体調に留意しながら心を合わせて、コロナ禍の対応を続けていきたいと思います。

コロナ禍は政府の悪政の積み重ねを直撃

コロナ禍は日本社会の最も弱い部分を、すなわちこれまでの政府の悪政の積み重ねを直撃しました。40年にもわたる医療費抑制政策は、医療機関の基礎体力をえぐり取り、目一杯頑張っても常に採

算ラインギリギリの経営を強いられしてきました。野放図に拡大されてきた非正規雇用は、今や労働者の4割を占め、雇用の調整弁として情け容赦なく解雇されてきました。「福祉に充てる」と政府が喧

伝してきた消費税は、そっくりそのまま大企業の減税に充当され、10%にまで上げられて、低所得者層の生活をさらに困窮化させました。枚挙にはいとまがありませんが、「コロナ禍はそれらの矛盾をさらに増悪させています。」

「たたかい」の年に することを提起

医療・介護の総合事業体として、同仁会は患者・利用者、職員を守り、地域に求められる医療と介護を提供し続けなければなりません。同時に「たたかい」が必須の課題になっています。コロナ禍に対する医療機関への政府財政支



援は、全く不十分です。申請手続きも非常に煩雑で、医療機関にさらなる負担を強いることになっていきます。全医療機関に対する、単純で十分な財政支援を政府に求め、医療機関が経営不安なくコロナ禍に対応できるようにしなければ、地域住民の健康を守ることができません。

また、全日本民医連が行ったコロナ禍における生活困窮調査435事例の集約では、非正規労働

同仁会の歩みを 振り返り、理念作成を

現在、同仁会では「2025ビジョン」の作成を進めています。私が考えるキーワードは、「基本的人権である健康権を守る」、「共同のいとなみとしての医療と介護・福祉を深化させる」、「経営一人

者、とりわけコロナ禍による解雇が女性を直撃し、生活困窮に至っていることが明らかになりました。医療と介護の支援だけでは、生活困窮への支えにはなりません。他の職能団体などと連携し、幅広い支援の手を差し伸べていく必要があります。私は、労働組合、健康友の会みみはらなどとも共同し、2021年を大いなる「たたかい」の年にすることを提起したいと思えます。

の一言だけではなく、文章として作り上げることを提起しました。

現在、理念とともに作成提起しました「4つの同仁会声明（ジェンダー平等、LGBT、ハラスメント、核兵器と平和）」の作成作業が進んでいます。私は、理念作成はその内容もさることながら、「作成の過程が大切」と考えています。「理事長が考えた理念を検討・承認する」のではなく、全役職員と友の会会員に「同仁会は何のために何を指すのか」を深く考えてもらいたい。時間はかかるでしょうが、皆さまが改めて「民医連綱領」を学びなおし、痛恨の経験を含めた同仁会の歩みを振り返り、深く討議することによる理念作成を望みます。

昨年4月の理事長就任以来、皆さまに励まされ、支えられながら理事長として役割を果たしてまいりました。新米理事長として毎日、学ぶことはあります。どうぞこれからもご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

「ビジョン」だけではなく、具体的な「中長期事業経営計画」も策定する必要がありますと考えています。大いに議論し、「コロナ禍の中でもゆるぎなく前進できる同仁会を、皆さまとともに作り上げていきたいと思えます。」

2020年度事業計画において、同仁会の理念を「一視同仁」

